

# 地域づくり【(3)子どもの視点に立った安全・安心なまちづくり】

## 基本施策/小児救急医療体制の充実

事業番号	47	47	48	342
事業名	小児救急医療体制の充実	小児救急医療体制の充実	応急手当普及啓発活動	AEDの導入
事業概要	小児救急センター(市立八幡病院内)において、軽症から重症患者まで総合的に救急医療の提供を行うとともに、医療スタッフの充実や療育環境の改善を図る。あわせて、小児救急を実施している市内医療機関との連携を図り、市民が安心して受診できる体制を構築する。また、出生と同時に緊急医療を必要とする未熟児・新生児に対し、迅速かつ適正な医療を確保する。さらに「小児医療先進都市づくり会議」において、小児救急医療をはじめとして小児医療の更なる充実を図るための協議を行う。	小児救急センター(市立八幡病院内)において、軽症から重症患者まで総合的に救急医療の提供を行うとともに、医療スタッフの充実や療育環境の改善を図る。あわせて、小児救急を実施している市内医療機関との連携を図り、市民が安心して受診できる体制を構築する。また、出生と同時に緊急医療を必要とする未熟児・新生児に対し、迅速かつ適正な医療を確保する。さらに「小児医療先進都市づくり会議」において、小児救急医療をはじめとして小児医療の更なる充実を図るための協議を行う。	思わぬ病気や怪我に冷静に対応できるように、子育て中の親や小学生(高学年)を対象とした普通救命講習会を実施するとともに、「安全・安心」に対する意識向上を図る。また、乳児の命を守る応急処置について実技指導を行う「新米パパママ応急手当講習会」等を開催する。	学校は、教育の現場であるとともに、地域活動の場や災害発生時の避難所など市民にとって重要な公共施設である。児童・生徒や利用者の不慮の事故に対応するため、AED(児童体外式除細動器)を導入し、安全で安心な学校環境を整備する。
指標	-	-	受講人数	-
初期年度: 初期値 (計画策定時)	-	-	16年度: 1,600人	-
目標年度: 目標値	-	-	17~21年度: 10,000人	-
実施年度: 実績値	-	-	19年度: 2,676人	-
19年度 実施状況等	<p>【保健福祉・地域医療課】</p> <p>第2回小児救急医療ワークショップ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日時: 平成19年7月28、29日</li> <li>場所: 北九州国際会議場</li> <li>参加人数: 155名</li> <li>内容: 小児救急医療関係者を対象とした実践的なワークショップ「小児救急トリアージのための印象診断」等</li> </ul> <p>小児医療先進都市づくり会議</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日時: 平成19年4月25日</li> <li>場所: 総合保健福祉センター</li> <li>参加人数: 14名</li> <li>内容: 会議の目的と位置づけ、検討項目の選出等について</li> </ul> <p>小児救急ネットワーク部会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日時: 平成19年8月21日</li> <li>場所: 総合保健福祉センター</li> <li>参加人数: 18名</li> <li>内容: 小児救急医療体制について等</li> </ul>	<p>【病院・業務課】</p> <p>小児救急患者(軽症から重症患者)を24時間365日受入れている。</p> <p>全国的な小児科医不足の中、後期臨床研修医(小児科)を増員するなど、医師が確保された。</p>	<p>活動内容: 小学校PTA、子育てサークルなどへの参加者並びに小学校児童等を対象とした応急手当講習会の開催</p> <p>受講人数: 2,676人(達成率89.37%)</p>	中学校36校、及び戸畑商業高等学校に設置。
備考 (特記事項)	19年度拡充(ハートフル子どもプラン)により、事業概要を一部変更。	19年度拡充(ハートフル子どもプラン)により、事業概要を一部変更。	達成率を単年度から目標年度までの累計による算定に変更。	18年度新規事業
担当(課)	保健福祉・地域医療課	病院・業務課	消防・救急課	教育・学校保健課

## 地域づくり 【(3)子どもの視点に立った安全・安心なまちづくり】

### 基本施策/家庭内事故の防止や交通安全の推進

事業番号	49	50	51	52
事業名	家庭内事故防止のためのPR	交通安全施設の整備（「文」マーク）	交通安全の推進	チャイルドシートの着用促進
事業概要	0歳児を除く子どもの死亡事故のトップである不慮の事故をなくすため、子育てふれあい交流プラザの中に、家庭内の危険箇所や予防方法を紹介したPRコーナーを設置する。また、乳幼児を持つ保護者に事故予防に対する啓発と具体的な指導を行う。	子どもの交通事故防止対策として、運転者に通学路に対する注意を促し、児童の登下校時の安全な通行を確保するため、通学路に「文」マーク路面表示を実施する。	交通事故のない安全なまちづくりを目指し、警察、交通安全推進団体、企業、市民等が一体となった交通安全運動や啓発活動を推進する。また交通安全意識やマナー向上を図るため、学校・職場・地域での交通安全教育を促進する。	子どもの自動車乗車中の交通事故被害を軽減するため、チャイルドシート着用の徹底や適正な使用方法、その効果についての広報啓発活動を実施する。
指標	設置	設置箇所数	死者数、啓発者数	着用率
初期年度： 初期値 (計画策定時)	-	15年度：1,885か所	16年度：死者数51人	16年度：54%
目標年度： 目標値	17年度：設置	21年度：2,065か所	21年度：死者数42人以下	21年度：67%
実施年度： 実績値	17年度：設置 19年度：啓発(47回)	19年度：2,023か所	19年度：死者数36人	19年度：49%
19年度 実施状況等	子どもの事故予防教室及び講演会を計画的に区や市民センターの子育て事業の中に盛り込み啓発活動を実施。 ・開催回数47回 ・参加者数891人  子育てふれあい交流プラザ内の「セーフキッズ」で、家庭内の危険箇所や予防方法などについて、展示物や映像を用いた啓発を実施。	新設21か所、再表示33か所の計54か所に標示。	広報啓発活動の推進 交通安全教育の振興 交通事故相談の推進	交通安全運動において着用徹底を重点項目に掲げ、広報・啓発活動を実施
備考 (特記事項)				
担当(課)	子ども家庭・子ども家庭政策課、子育て支援課	総務市民・安全・安心課	総務市民・安全・安心課	総務市民・安全・安心課

## 地域づくり 【(3)子どもの視点に立った安全・安心なまちづくり】

### 基本施策/犯罪等からの被害防止

事業番号	53	54	55	56	57
事業名	防犯ホームページ（地域防犯対策事業）	生活安全パトロール隊の結成支援（地域防犯対策事業）	安全セミナーの開催	ガーディアン・エンジェルズセーフティセンター運営支援事業	地域安全・安心リーダー養成講座
事業概要	地域に密着した情報提供と市民の自主的防犯活動を促すため、防犯ホームページの内容の充実を図る。	地域住民による自主防犯活動を促進するため「生活安全パトロール隊」の結成を支援する。また、警察OBを指導員として採用し、パトロール活動への同行、防犯講習会の開催など、地域の自主防犯意識の向上に努める。	夜間の防犯パトロールや環境美化活動、青少年への声かけ等を通じて、地域の社会環境改善のための活動を行っている「日本ガーディアン・エンジェルズ」を講師を迎え、小学生や市民を対象にした防犯セミナーを開催する。	小倉北区のJR小倉駅周辺や魚町周辺の環境浄化活動や青少年からの悩み相談などを行う「セーフティ・センター」を設置し、その運営を行うガーディアン・エンジェルズを支援する。	「生活安全パトロール隊」の代表や指導的な立場の人を対象に、地域防犯活動の更なるレベルアップと活性化を図るため、座学、体験学習などの安全・安心に係る「講座」を開催して、地域における防犯リーダーを養成する。
指標	-	結成校区数	実施（開催）回数	-	実施回数
初期年度：初期値（計画策定時）	-	16年度：50校区	16年度：2回	-	-
目標年度：目標値	-	18年度：全小学校区	19年度：7回	-	毎年度1回実施
実施年度：実績値	-	18年11月：全小学校区で実施	19年度：18回	-	19年度：7～8月に1回実施
19年度実施状況等	18年度事業終了	1分校区を含め、市内全133校区で生活安全パトロール隊が結成された。 【達成率100%】	実施回数 18回（うち小学校14回、中学校4回） 受講者数 ・生徒児童：約5,770人 ・保護者等：約200人	運営補助 センターでは、青少年に対する就労支援や性教育、薬物依存からの立ち直り支援を実施。	実施日程等 平成19年7～8月にかけて3日間、計9講座を開催。 修了者 51名（平成18年度59名） 【達成率：100%】
備考（特記事項）	18年度事業終了	当初の目的を達成したため、『隊の結成支援』から継続的な活動として定着するよう『（活動）継続支援』に重点をシフトした。	事業名を正式名称に変更（旧・青少年防犯セミナー）	施設設置に伴い、事業名を正式名称に変更（旧・ガーディアン・エンジェルズ民間交番運営支援事業）。同時に目標値も削除。	事業名を正式名称に変更（旧・地域安全・安心リーダー育成講座）
担当（課）	総務市民・安全・安心課	総務市民・安全・安心課	総務市民・安全・安心課	総務市民・安全・安心課	総務市民・安全・安心課

## 地域づくり 【(3)子どもの視点に立った安全・安心なまちづくり】

### 基本施策/犯罪等からの被害防止

事業番号	58	59	60	61	343
事業名	地域の安全点検！「手作り地域安全マップ」作成事業	青少年健全育成・非行防止担当者街頭パトロール実践研修会の実施	まちかど見守り運動推進事業	児童生徒の安全確保のための防犯ブザー購入補助	児童見守り消防隊
事業概要	地域住民と警察、行政、学校、NPOが防犯対策について話し合いながら、事件が起ころうな場所や危険と思われる場所、駆け込める場所（安全な場所）等を地図上に落とし「手作り地域安全マップ」を作成し、危険回避能力の養成と地域との連帯感を高める。	青少年の健全育成・非行防止に携わる担当者を対象に、日本ガーディアン・エンジェルズ北九州支部が行う防犯パトロールに同行し、声かけの仕方や効果的なパトロール方法を実践で学ぶ。	小倉北区、小倉南区で実施している企業を中心にした当該運動を拡大し、より多くの目線で地域を見守ることにより、犯罪発生を抑止を図るとともに、市民の防犯意識の醸成を図る。	登下校時を含め児童生徒のすべての生活時間にかかる安全確保のため、防犯ブザーの購入補助を行う。	児童生徒が登下校時に犯罪に巻き込まれないよう、教育委員会及び各関係機関と連携し、地域における安全確保を図る。具体的には、消防隊が警防調査及び査察等の業務出向時に、消防局で作成した「児童見守りパトロール」のステッカーを消防車両に掲示して通学路を巡回することで、児童生徒の見守り活動を行う。
指標	実施回数	実施回数	参加人数	-	-
初期年度：初期値（計画策定時）	-	17年度：1回	17年度：9,500人	-	-
目標年度：目標値	18年度：14回（7区×2回）	毎年度：1回実施	18年度：15,000人	-	-
実施年度：実績値	18年度：2回	18年度：1回	9,500人（市職員）	-	-
19年度実施状況等	18年度事業終了	18年度事業終了	市職員：約9,500人 生活安全パトロール隊員：約1,150人	7,026個(1,722千円)の補助。 新1年生の54%が購入。	市内で、延べ6,363回のパトロールを実施した。
備考（特記事項）	18年度事業終了	18年度事業終了	事業概要、指標、目標値変更。 19年度事業終了。		
担当（課）	総務市民・安全・安心課	総務市民・安全・安心課	総務市民・安全・安心課	教育・指導第二課	消防・警防課

## 地域づくり 【(3)子どもの視点に立った安全・安心なまちづくり】

### 基本施策/バリアフリーのまちづくりの推進

事業番号	62	63	64	65	66・67
事業名	バリアフリーのまちづくりの推進	都市モノレール施設改善・維持修繕事業	JR既存駅に対する昇降装置整備支援事業	バリアフリー環境整備促進事業	人にやさしいまちづくりの推進
事業概要	子育て中の人等、誰もが安全で安心して移動できる都市空間を実現し、社会参加できる環境づくりを推進するため、公共施設を中心とした地域を対象に、歩道段差の解消、立体横断施設・駐輪場の整備等バリアフリー化を推進する。	公共交通機関である都市モノレール停留場をバリアフリー化することで、子どもや高齢者等交通弱者の移動の円滑化を図る。	公共交通機関であるJR駅（市内14ヶ所）をバリアフリー化することで、子どもや高齢者等交通弱者の移動の円滑化を図る。	妊産婦や子ども連れ、高齢者及び障害のある人等が利用しやすい優良な建築物の整備を促進するため、バリアフリー法の認定を受けた建築物で、その建物内の不特定かつ多数の人が利用する施設（商業施設等は除く。）に至る、移動システム等の整備にかかる費用の一部を補助する。	子どもから高齢者まで、障害のある人もない人も、誰もが住み慣れた家庭や地域で安心して快適に生活し、自らの意思でいきいきと自由に社会参加することのできる“バリアのない”“バリアを感じない”「人にやさしいまちづくり」を推進する。
指標	主要駅周辺道路のバリアフリー化率	整備停留場数	整備駅数	—	—
初期年度：初期値（計画策定時）	15年度：60%	16年度：6停留場	15年度：6駅	—	—
目標年度：目標値	19年度：85%	22年度：13停留場（うち3停留場は、13年度以前に整備済）	22年度：14駅	—	—
実施年度：実績値	19年度末：85%	19年度：9停留場	19年度：11駅	—	—
19年度実施状況等	下曽根駅などの駅周辺地区のバリアフリー化 都心、副都心地区のバリアフリー化 小倉北区清水地区などのあんしん歩行エリアの整備	片野停留場バリアフリー化整備（エレベーター・多目的トイレの整備） 守恒停留場バリアフリー化設計	（H18線）城野駅のバリアフリー化整備 南小倉駅のバリアフリー化整備 新幹線小倉駅のバリアフリー化整備	補助対象施設の建築が少ないため、補助の該当なし。	バリアフリーウィーク（14事業）の実施 18,204人参加  バリアフリー体験学習コーナーの実施 700人参加  人にやさしいマークの配付 2,673枚（延枚数）
備考（特記事項）		事業拡大による事業名変更		平成18年12月20日、バリアフリー法への移行に伴う事業名変更(旧・人にやさしいまちづくり事業)	「No.66 バリアフリー情報提供事業」と統合
担当(課)	建設・道路計画課	建築都市・都市交通政策課	建築都市・都市交通政策課	建築都市・建築指導課	保健福祉・総務課

## 地域づくり 【(3)子どもの視点に立った安全・安心なまちづくり】

### 基本施策/子育てを支援する生活環境の整備

事業番号	68	69	70	71	72
事業名	優良賃貸住宅供給支援事業(特定優良賃貸住宅)	市営住宅整備事業	マイホームローン	北九州市住まい支援事業	定期借地権付住宅普及事業
事業概要	人口減少や高齢化が進むまちなかに、子育て世帯を含むファミリー向けの良質な賃貸住宅を建設する民間事業者に対して、建設費の補助を行うとともに、一定の基準を満たした入居者に家賃補助を実施する。	子育て世帯や高齢者など誰もが使いやすい「すこやか仕様住宅」(床段差解消、手摺の設置、高齢者向け浴槽等)の整備を進めるとともに、新婚・母子・多子の世帯に対し、市営住宅への優先入居を進める。	住宅取得に必要な資金を市民へ融通することにより、居住水準の向上を図り、あわせて子育て環境を充実させる。	市外からの転入を促進し、安心して子育てができる環境を整えるため、分譲住宅取得にかかる助成を行う。	市街地への若年世帯の定住を促進し、子育てしやすい住環境を整備するとともに、未利用地の活用を図るため、低価格でゆとりのある住宅が取得できる定期借地権制度の普及を進める。
指標	認定戸数(累積戸数)	-	融資戸数	認定戸数	-
初期年度: 初期値 (計画策定時)	17年度:1,500戸	-	15年度:年間15戸	11~15年度:累計80戸	-
目標年度: 目標値	21年度:2,000戸	-	17年度:年間350戸	19年度:200戸	-
実施年度: 実績値	19年度:1,918戸	-	18年度:1戸	19年度:150戸	-
19年度 実施状況等	19年度新規供給戸数: 7団地213戸  19年度累積戸数: 69団地1,918戸  【達成率:95.9%】	年間建替戸数(新規着工分):157戸  募集戸数(優先入居): 324戸	平成19年度4月以降の住宅金融支援機構の融資制度変更にあわせて新規融資の受付を停止した。	平成19年度認定により、市外から104世帯、340人の人口増がなされた。	ガーデンヴィレッジ天神第2期事業 :18区画中17区画契約済残り1区画分販売促進
備考 (特記事項)	事業内容拡充予定に伴い、目標値変更。		18年度事業終了		
担当(課)	建築都市・住宅計画課	建築都市・住宅整備課	建築都市・住宅計画課	建築都市・住宅計画課	建築都市・住宅計画課

## 地域づくり 【(3)子どもの視点に立った安全・安心なまちづくり】

### 基本施策/子育てを支援する生活環境の整備

事業番号	73	74	75	76	77
事業名	すこやか住宅普及事業	賃貸住宅供給支援・情報提供	多子世帯向け市営住宅への優先入居	住宅市街地総合整備事業【拠点開発型】	市有建築物のシックハウス対策
事業概要	すこやか住宅セミナーの開催や高齢者等の住宅相談、すこやか住宅改造助成事業の実施により、「すこやか仕様」住宅の普及を促進し、子育て世代の生活環境の負担軽減を支える。	子育てを担うファミリー世帯に、良質な賃貸住宅を供給するため、高齢者等の住宅資産の賃貸化や円滑な住み替えを支援するなどの施策を推進する。	市営住宅への入居希望者の中で、特に住宅の自立確保が困難と思われる多子世帯に対し、募集戸数を優先的に確保する。	交通や買物など生活利便性の高い「街なか」において、住宅供給の促進や生活環境の改善・向上を進めることにより、年少人口の定住やコミュニティの回復及び子育て支援など、都市活力の再生を図る。	室内空気汚染については、ホルムアルデヒド等の化学物質によって健康被害の発生が考えられることから、市有建築物の工事竣工時に化学物質が国の示す指針値以下であることを確認するなど、誰もが安心して生活ができるように、室内空気中化学物質の抑制を図る。
指標	-	-	募集戸数	-	対象建築物
初期年度： 初期値 (計画策定時)	-	-	15年度：年間87戸	-	16年度：学校施設
目標年度： 目標値	-	-	21年度：年間概ね100戸を提供予定	-	17年度～：全市有施設
実施年度： 実績値	-	-	19年度：64戸	-	19年度：50施設
19年度 実施状況等	市民向けセミナーや会員向けレベルアップ研修会等を開催。	平成14年度より、公共賃貸住宅にかかる情報提供を行う「公共賃貸住宅インフォメーションシステム」を導入した。また、平成16年度より福岡県が設立した高齢者世帯や若年世帯等の住替えの円滑化を図る「福岡県あんしん住替え情報バンク」について制度の周知等の情報提供を実施している。 「公共賃貸住宅インフォメーションシステム」の導入により、公的住宅については、市民に対する住情報提供の環境が整いつつある。また、「あんしん住替え情報バンク」への情報提供等の協力で円滑な住替えを支援することにより、高齢者世帯と若年世帯との居住状況のミスマッチの解消につながっており、市民への多様な住情報提供の手段として、有効に機能している。	募集戸数（多子世帯）：64戸	市街地住宅の供給支援市街地住宅117戸完成都市基盤の整備	対象施設 新築、増築及び改修工事を行った全ての市有建築物（ただし、市営住宅を除く）  施設数 50施設で実施  実施内容 全ての対象施設で、ホルムアルデヒド等の化学物質の濃度が指針値以下であることを確認し、引渡しを行った。
備考 (特記事項)					ホームページ上での公表にあたり、一般市民にわかりやすいものとするため事業名を変更。 旧事業名：ホルムアルデヒド等の室内空気中化学物質等の抑制措置
担当(課)	建築都市・住宅計画課	建築都市・住宅計画課	建築都市・住宅管理課	建築都市・再開発課	建築都市・建築保全課

## 地域づくり 【(3)子どもの視点に立った安全・安心なまちづくり】

### 基本施策/子育てを支援する生活環境の整備

事業番号	78	79	80	81	349
事業名	住まいの相談支援事業	市営住宅等におけるシックハウス対策	安全で歩行者等にも優しい道路整備	足元道路の整備	ハートフル住宅金利優遇制度
事業概要	多様化している住まいに関する相談に的確・専門的に応じるため、シックハウス対策など適切な情報提供を行うとともに、住宅相談窓口において専門指導員等による相談を受け付け、子育てしやすい環境の充実を図る。	安全で快適な住環境を確保するため、市営住宅等公的住宅において、シックハウス症候群の原因となる化学物質の空气中濃度の調査を行い、シックハウス対策を実施し、子育てしやすい環境を整備する。	歩行者の通行を優先すべき住居地域などにおいて、通過交通の進入を抑え、地区内の安全性や快適性、利便性の向上を図るため、歩道やコミュニティ道路などの整備を行い、望ましい地区環境の創出を図る。	日常反復して行われる道路施設の手入れ・軽度の修理や老朽化して損傷の激しい部分の修理を行い安全で安心な道路空間の確保を図る。また、地域住民からの要望に迅速に対応し、道路の舗装、路側・側溝の整備を行う。 さらに平成20～21年度は、市民センターや子育てにやさしい公園等の地域活動拠点に安全かつ気軽に行けるよう、周辺道路の質の向上も図る（「暮らしにやさしい道事業」の実施）。	高齢者仕様、省エネルギー仕様、耐震仕様の人と環境にやさしい住宅を普及促進するため、住宅の取得やバリアフリーリフォームにかかるローン金利の優遇を民間金融機関と連携し実施する。
指標	-	-	あんしん歩行エリア内の死傷事故件数低減割合	-	-
初期年度： 初期値 (計画策定時)	-	-	平成11年-13年のあんしん歩行エリア内の死傷事故件数	-	-
目標年度： 目標値	-	-	平成19年：あんしん歩行エリア内の死傷事故を2割削減	-	-
実施年度： 実績値	-	-	平成19年：低減割合調査中	-	-
19年度 実施状況等	(財)福岡県建築住宅センターに業務委託して、住宅相談コーナーを設置。	竣工する市営住宅について、室内濃度測定を実施し、安全で快適な住宅を供給している。	小倉南区北方・若園地区等のあんしん歩行エリアの整備 道路照明灯や道路標識、防護柵、区画線等の整備	足元道路における舗装、路側・側溝等の補修や整備を行い、適切な維持管理に努めるとともに、地域住民からの補修等の要望についても迅速に対応した。さらに今年度は地域と連携した取り組みを行い足元道路の整備充実を図った。	受付戸数：15戸 融資戸数：8戸
備考 (特記事項)				事業拡充（ハートフル子どもプラン）に伴い、事業概要を変更。	
担当(課)	建築都市・住宅計画課	建築都市・住宅整備課	建設・道路計画課	建設・道路計画課	建築都市・住宅計画課



## 地域づくり 【(3)子どもの視点に立った安全・安心なまちづくり】

### 基本施策/身近な公園・遊び場の整備

事業番号	82	83	84	85	86
事業名	身近な公園の整備	特色のある公園整備	都市公園等整備事業	板櫃川水辺の楽校プロジェクト	撥川河川環境整備事業
事業概要	子育てに配慮した公園のように、市民ニーズを捉え、子どもたちが安全に、安心して利用できるような公園づくりを行う。また再整備にあたっては、「ハートフル公園計画」に沿って行う。	良好な自然や歴史、地域特性を活かし、自然探訪など野外リクリエーション機能を持った公園、歴史的資源を活かした公園、ふれあいの拠点や時代のニーズに対応した公園等、それぞれの持つ立地特性を最大限に生かす公園整備を行う。	誰もが安全で安心して利用でき、親しみや愛着が持てる公園となるよう幅広く利用者の意見を聴取し、ユニバーサルデザインに配慮した公園整備を行う。	瀬や淵、せせらぎ等の自然環境を創出するとともに、子どもたちが自由に近づき、自然と出会う安全な水辺整備を行う。ボランティア団体等の地域との連携を図り、さまざまな活動のサポートを行いながら、水辺の楽校を拠点として自然体験や学習の場、遊びの場として活用されるような仕組みづくりを行う。	自然環境を再生し、緩傾斜護岸やスロープの整備により、子どもたちが安心して河川を訪れ、水辺に親しむことのできる水辺環境や環境学習の場を創出する。
指標	-	-	-	整備率（事業費ベース）	親水整備延長
初期年度： 初期値 (計画策定時)	-	-	-	16年度：89%	15年度：630m
目標年度： 目標値	-	-	-	19年度：100%	18年度：800m
実施年度： 実績値	-	-	-	19年度：100%	18年度：800m
19年度 実施状況等	計画1公園、新設5公園、再整備7公園の整備をはじめとした住区基幹公園の計画、整備及び再整備を行った。	従来よりも利用しやすく、魅力のある公園となるよう、それぞれの立地を活かして、勝山公園、足立公園、櫛山荘公園などにおいて整備を行った。	公園の整備・再整備：約371公園	ハード整備では、自然に親しめる安全な水辺空間「水辺の楽校」が概ね完成し、地域と連携した水辺の活用（ソフト施策）についても、体験型環境学習（年5回の活動）を実施した。	親水護岸・京良城池の整備（18年度） (達成率：100%)  18年度事業終了。
備考 (特記事項)	事業拡充（ハートフル子どもプラン）に伴い、事業概要を変更。			市民により分かりやすい指標に変更。 平成19年度まで、事業繰越に伴う目標値等変更。	18年度事業終了。
担当(課)	建設・公園建設課	建設・公園建設課	建設・緑政課	建設・計画課	建設・水環境課

## 地域づくり 【(3)子どもの視点に立った安全・安心なまちづくり】

### 基本施策/身近な公園・遊び場の整備

事業番号	87	88
事業名	海辺のマスタープラン2010の推進	紫川マイタウンマイリバー整備事業
事業概要	多くの市民が気軽に港や海辺の魅力に接することができるように、水際線の整備を進める。また、計画づくりから施設整備、既存施設の利用のあり方まで様々な段階で市民参加を進め、市民にとって利用しやすく安全な施設整備を行う。	小倉都心地域で、治水対策とあわせ、人々が川に集い・憩い・賑わう、「川を軸としたまちづくり」をテーマとした河川整備を行う。
指標	市民が容易に親しめる水際線延長(整備延長)	事業進捗度
初期年度: 初期値 (計画策定時)	15年度: 10.8km	15年度: 80%
目標年度: 目標値	22年度: 25km	25年度: 100%
実施年度: 実績値	19年度: 13.4km	19年度: 86.5%
19年度 実施状況等	19年度整備延長2.0kmのうち0.1kmが整備完了 19年度末の完成延長: 13.4km (達成率: 約53.6%)	ハード整備では、護岸整備(小倉タワー前)、JR橋改築等を行い、都心部の治水安全度の向上を図るとともに、整備が完成した親水施設では、まちづくり団体主催の“遊びにおいでよ!紫川”などさまざまなイベントが行われ、都心部に賑わいを創出した。
備考 (特記事項)		
担当(課)	港湾空港・総務経営課	建設・水環境課